

あした 未来へつなぐ

【安全性向上のための取り組み】

ひとりでも多くの人の役に立つために、
この北海道で地域と人のために私たちができること。
JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。
「未来(あした)へつなぐ」ために。

文=本間 吾里砂

九月十九日を「保線安全の日」に制定。 約七百名の保線社員が、脱線事故を契機とした 一連の事象の再発防止を誓いました

平

成二十五年九月十九日、函館本線大沼駅

構内で発生した貨物列車脱線事故から約一年が経過しました。この事故を契機

に、多数の職場においてルール通りに線路の補修作業がなされていなかったことや、検査データの書き換えが行われていたことが判明。こ

れにより、JR北海道は社会的に厳しく批判を受け、お客さまの信頼を大きく損なうことになったので

す。事態を重く受け止めた同社では、同じ過ちを繰り返さないために、脱線事故が発生した九月十九日を『保線安全の日』として制

定し、その事故を教訓に安全を最優先とする取り組みを継続的に進めていくことを決めました。なお、制定の主旨は次の三つです。二つ目は保線社員全員が一連の事象を振り返り、再発防止への思いを風化させないこ

と。二つ目は「正しく記録し、報告する文化」を醸成・定着させ、検査から修繕までの適正化を推進すること。そして、三つ目は二度と不正行為が起ることのないよう、コンプライアンス教育の強化を図ること。

第一回目となった今年度の『保線安全の日』は、約七

百名の保線社員が各保線所に集まり、保線における安全をテーマとした取り組みに参加しました。プログラ

ムは、安全講話、大沼脱線事故および一連の事象の振り返りなどにより「事故の重大さ」を再認識することから始まり、その後は検査機器類の取り扱いなどの実設訓練や勉強会を実施。また、これに関連して

函館駅では、八月二十六日から九月三十日の約一カ月にわたり、「保線パネル展」を開催しました。保線の分野では、レール交換やマクラギ交換など作業の大半が列車運行の少ない夜間に行われます。このパネル展は、お客さまの目にふれることのないそれらの業務と、再生に向けた取り組みを具体的かつ明確に伝えることで、保線のイメージと信頼の回復につなげることを主な目的としています。



JR北海道の須田会長は、「安全講話」の中で「ミリ単位の仕事がお客さまの安全を守っているということを心に刻み、情熱を持って保線業務に取り組んでほしい」と話しました。

を教訓に安全を最優先とする取り組みを継続的に進めていくことを決めました。なお、制定の主旨は次の三つです。二つ目は保線社員全員が一連の事象を振り返り、再発防止への思いを風化させないこ

と。二つ目は「正しく記録し、報告する文化」を醸成・定着させ、検査から修繕までの適正化を推進すること。そして、三つ目は二度と不正行為が起ることのないよう、コンプライアンス教育の強化を図ること。



函館駅で行われた「保線パネル展」のテーマは「安全な線路の再生を目指して」。